

■「食事の仕方や食事支援の仕方～基礎（嚥下の仕組み）から実際の支援までを考えよう～」勉強会報告

平成 21 年 12 月 17 日千歳市総合福祉センターにて、学校法人つしま記念学園日本福祉リハビリテーション学院の言語聴覚士の最上順正さんをお招きし、ご講演をいただきました。当日は 19 時からと遅い時間にも関わらず、障がい者、高齢者の支援に関わる事業者の方をはじめ、ご家族、当事者の方と幅広い方面から 80 名あまりのご参加をいただきました。



基本的な飲み込みの仕組みから実際の食事場面の支援における配慮やコツなどについて、普段なかなか目にすることのない DVD での映像資料なども交えてわかりやすく説明していただきました。また途中、会場中央で実演を交えてのお話もあり、「実感を伴って理解できた」との感想をいただきました。ご講演の終盤には先生のご経験に基づく熱い思いも語っていただき、ご講演終了後も会場あちらこちらでお話を続ける姿、先生へのご質問等が続いていました。会場の時間の都合もあり、参加された皆様にはそれぞれの思いを胸に帰路についていただきました。

当日ご参加いただきました皆様にアンケートの協力を賜りましたが、多くの方に「基礎基本のことがとてもわかりやすくゆくりなお話でよかった」「今後第二弾に应用編を引き続き期待したい」とのご回答をいただきました。日常のケアに密接であり、なお生きて行く営みにとても大事にしたい今回の話題は、身近な話題であるからこそ、研鑽を怠ってはならないことだったのではと思います。皆さんからいただいた貴重なご意見を活かし、今後の研修企画の糧とさせていただきます。また、今後も「皆さんとともに学べる場」を創っていきたいと思います。その節は是非またご参加いただきたく思います。お忙しい中ご参加いただきました皆様、どうもありがとうございました。

■「サービスを使って地域で暮らす～制度施行 4 年目を迎えて～」勉強会報告

平成 18 年の勉強会にもお越しいただいた、社会福祉法人藤沢育成会湘南セリア施設長で日本知的障害者福祉協会政策委員会副会長の河原雄一さんに講演していただき、当事者、障がいを持つ方を支援する事業者など 45 名ほどの方が参加しました。



「障がいのある方の地域・街での暮らしを考える」を主題に、住まい、生活や余暇支援、日中活動、それらへのアクセスについて整理をかけていくことが暮らしやすさの追及になるのではないかと提案され、現入所施設での地域移行のための支援プログラム例（支援計画例）を具体的にお話いただきました。また、地域での暮らしを考えるためにケアマネジメントという手法が定着しつつあり、本人を中心とした個々のニーズに対応したケアプランを作成し、既存の社会資源のみならず地域で創造していくことが重要とのお話がありました。

次に国で行われている障害者自立支援法の報酬改定のことなどの説明の後、「施行後の使い勝手はどうか」「利用者からの声が必要ときである」ことが訴えられていました。施行して約 3 年が経過しましたが、「毎年制度が変わってよく分からない」「希望するサービスと支給決定が受けられない」「満足するサービスが受けられない」「障害程度区分が低い」等の意見が絶えず噴出しており、国に任せるだけでなく各地域ごとに住民が使いやすい視点で議論していくことが必要とのことでした。

後半は、自立支援法上の相談事業所がこの相談から、地域にニーズを抽出できる機関となり、地域連携の起爆剤として問題を提起する必要があることが地域を見直していくことにとって有効であるというお話がありました。また、これからの障がい福祉については障がい福祉の問題だけでなく、派遣切り・少子高齢問題等の問題も急増し、日本自体が危なくなっている中、改めて何が大事なのかをここで考えるとともに地域で共有し、人と人との繋がり・助け合いを強めていくことが、今の現状を変えていくことになるのではないだろうかと思われました。

最後に、今回参加された皆さんからの質疑などを聞く中で、障がいのある人がこの国に生まれ、この街に住んだことが幸せと言える地域になるよう、関係者の皆さんとの繋がりを大事に、一緒に地域の力を高めていきたいと感じました。市民が何を望み・何を必要としているのか見極める力も必要ですが、地域で起こっていることにアンテナを立て、向かい合うことを皆さんとしていくことが重要だと分かりました。地域で支える仕組みづくりに向けて、また皆さんとこのような機会を持ちたいと思っていますので、何か良案のある方はセンターまで御連絡下さい。

■「障害者自立支援法勉強会」報告

記：平成18年5月19日



「まだよく新しい法律についてわからない・・・」そんなご家族の声により、勉強会が実現しました。

日本知的障害者福祉協会政策副委員長で神奈川県藤沢市にありますが、社会福祉法人藤沢育成会湘南ゆうき村施設長の河原雄一さんに講演していただき、当事者、障がいを持つ子供の親御さん、障がいを持つ方を支援する事業者など60名ほどの方が参加しました。

「地域でどんなふうに暮らしていくか？」を主題に、福祉サービス利用や自己負担について講演をしていただきました。

また、支援費制度が始まったことによる「ホームヘルプサービス利用ののび」により事業所が増加、「利用して良かった」という利用者の声もありましたが、利用者が情報を整理できるかできないかによって、サービス利用の勝ち組・負け組が出てきてしまったということ、そのような格差を生まないような地域力を高めるためには、このような勉強会で親御さん同士の仲間を作ったり、行政とのパートナーシップをとっていくことが重要だとの指摘がありました。

後半は、参加した方から短期入所・移動介護の利用についての見通し、介護保険制度との関係、作業所の今後の行方など、質問が挙がり、盛り上がりました。

最後に、この勉強会を通し、情報を届けることの重要性和地域の中での活発な議論が地域創造に繋がっていくことがわかりました。一つ一つ理解しながら、地域で支える仕組みづくりにむけて、また開催したいと思えます。

